

# 今川悟の気仙沼市議会定例会報告

## 面瀬の災害公営住宅建設へ

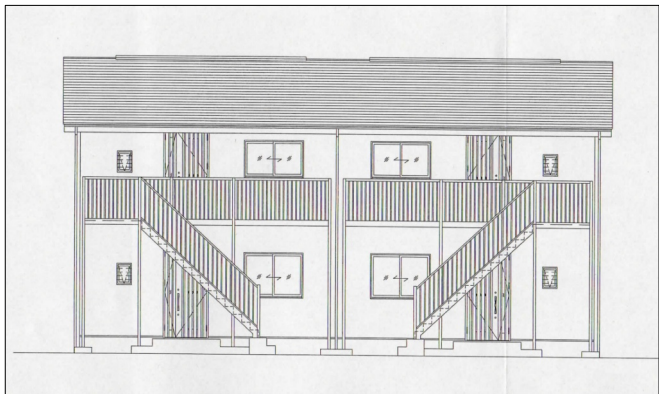
委員会が2  
8年度から  
5年間、継  
続して指定

面瀬地区の皆さんへ、気仙沼市議会12月定例会の結果を報告します。面瀬関連では、鶴巻の防災集団移転団地内で計画している災害公営住宅を建設するための契約が認められたほか、面瀬地域ふれあいセンター（面瀬公民館）の指定管理者を継続することが決まりました。市職員に規定通り払っていなかった残業代を支給するための予算計上もありました。（今川 悟）

### 防災集団移転は3月

鶴巻の防災集団移転団地は、造成工事が進み、3月には住宅再建の宅地（58区画）が引き渡される予定です。早ければ引き渡しから3カ月程度で完成予定の住宅もあるそうです。

造成が進んだことで、いよいよ災害公営住宅の建設工事に着手します。市議会には、市内の戸建て・長屋タイプの災害公営住宅建設を任せている気仙沼地域住宅生産者ネットワークに、完成した後の建物を市へ譲渡するための契約が提案されました。戸建ては51戸、長屋は64戸分（平屋10



棟・2階建て12棟（左図）をいずれも11月10日まで完成させ、計約21億円で市に譲渡します。面瀬地域ふれあいセンターの指定管理者は、管理運営

されました。市から毎年約9百万円の指定管理料を受けます。公民館機能が「階上公民館面瀬分館」から「面瀬公民館」へ変わったことで、指定管理料も増えています。

このほか、一般会計補正予算で、市職員の残業代約3億9千万円を追加支給することを認めました。財政難を理由に打ち切っていた残業代について、24年度にさかのぼって支給することになります。市が未払いを認めた以上、法令に従わなければならない。

審議の中で、23年度の不払い分約4億円は支給しないこと、職員の中には未払い分の支給を辞退している人がいることが分かりました。今後は残業を減らす対策を確認し、事業の見直しを求めました。補正予算では、川原漁港など14漁港の船揚げ場に、滑り材を設置する事業も行います。

## マニフェスト大賞優秀賞



地方の首長や議員などを表彰する第10回マニフェスト大賞で、今川悟が優秀賞を受賞しました。記者経験を生かして毎月発行している気仙沼復興レポートをはじめ、復興情報の発信などが評価されました。

### 復興レポートなどの情報発信を評価

2467件の応募があり、49団体・個人が各賞に選ばれました。今川悟が受賞したのは優秀コミュニケーション・ネット選挙戦略賞です。授賞式は11月6日に東京の六本木ヒルズで行われ、審査員の杉尾秀哉さん（TBSTテレビ解説専門記者室長）から賞状が手渡されました。

気仙沼市議会10月定例会で、今川悟は6回目的一般質問を行いました。今回は、縦割り行政で問題が出ている小・中学校の再編、災害危険区域と防潮堤を取り上げました。災害危険区域は、設定時に比べて約半分の海岸で堤防高が変わったため、来年度早々に津波シミュレーションをやり直し、区域の変更を含めて検討することになりました。

### 災害危険区域の変更

**問** 災害危険区域は、新たな防潮堤ができることを前提にして、24年7月に指定した。防潮堤など設定した構造物の計画が変われば、危険区域も変わる可能性がある。構造物の設定が変更になった場所はいくつあるのか。今後の対応は。

**答** 住民合意が得られた防潮堤の中には、当初のシミュレーション時の設定と異なる箇所が生じ、市内で整備計画がある87海岸107地区のうち、43海岸47地区で高さが変わっている。

災害危険区域の変更は、できるだけ不利益を被る人が出ないようにする。シミュレーション結果だけに頼らず、ある程度は運用してい

### 防潮堤で守るものは

く観点も考えたい。再シミュレーションは新年度の当初予算で速やかに実施したい。

**問** 市管理漁港に計画しているレベル1津波対応の防潮堤で、レベル1津波を防げるエリアに住宅がない海岸はあるのか。ある場合、それぞれ何を守るために防潮堤を整備するのか。

**答** 市管理漁港でレベル1防潮堤は、32カ所で開催している。そのうち高台移転等で住宅がない海岸は、現在のところ11カ所。内訳は、生活道の被災により人家の孤立を防ぐ箇所が館、滝浜(唐桑)、宿舞根の宿浦、鶴ヶ浦東部の4カ所、県道、国道、JRを守る箇所は只越、赤牛、大沢(津谷)、蔵内、蔵内草木沢の5カ所、

商店・飲食店など地域産業を守るのは長崎、地域振興のため地元が必要としているのは前浜(本吉)。この

### 赤牛・大沢漁港の見直しを

**問** JRの法面を守ると説明していた本吉の赤牛漁港と大沢漁港の防潮堤(海拔9・8m)は必要なのか。海岸ごとに必要性などをまとめたチェック表の作成を提案する。

11カ所のうち、蔵内草木沢地区を除き、災害危険区域内には住宅が残っている。

### 見直しの程度がどのくらいになるか分らないが、JRを守るとうとすることではないことだけは確かだと思っ

**答** 宮城県は公共交通機関や国道をレベル1津波からの防護対象としており、市も両漁港での国道法面を防護する防潮堤が必要であると考へ、地元説明会でも理解をいただき計画を進めている。両漁港とも国道との間には、被災したJR気仙沼線があることから、防潮堤の設置案についてJR東日本と詰めていく。



防潮堤より高いJR線路跡がある大沢漁港

**答** JRはこの地域で、鉄道復旧の場合は内陸移設、BRTで本復旧の場合は国道45号利用の方針を示しているが、現場レベルの話になると、正式にBRT化していかないの、線路はまじであり、JRとしては守ることになってしまふ。無駄な話なので、職員にはやめるように指示した。今後はJRとどういう防潮堤を造るか協議していく。

### 小・中学校再編問題

見直しの程度がどのくらいになるか分らないが、JRを守るとうとすることではないことだけは確かだと思っ

**問** 気仙沼市義務教育環境整備計画では、29年4月までに水梨小、月立小、小原木小、馬籠小、小泉中を近隣校へ統合することにしている。しかし、統合の準備期間を考えると時間はない。統合計画によって、入学予定児童が減少する事態も発生しており、地域懇談会の在り方を見直すべきではないか。

**答** 地域や保護者の理解を得るために時間を要している学校もあるが、一定の理解を得たところは計画通りの統合に向けて準備していく。地域振興など市長部局と一緒に検討すべき課題もあり、懇談会には関係部局職員のの同席を依頼し、実りある意見交換となるように努めていく。